

11月15日(火)～12月14日(水) 満月セレクト

— 今回のセレクトアーティストご紹介 —

Music Selector : 田村 直子



田村 直子

高校時代より、ジャズとそのルーツを遊んで音楽を聴くようになり、世界各地の音楽に興味を持ち始める。大学では民族音楽学を専攻。大学卒業後は、音楽プロモーターとしての仕事に従事。現在は、ラジオ番組制作を中心に、音楽家の招聘、エージェン業務、イベントやコンサートのプロデュースを行う。

選曲テーマ“晩秋の薔薇”/ 晩秋に咲く薔薇は特に香りが豊かで、色が鮮やかです。夕陽に燃ゆる薔薇は、哀愁に満ちていながらも一層気高く、その姿は果敢です。この晩秋の薔薇のイメージになぞらえて、世界各地の女性アーティストの作品を5枚選びました。

今回のセレクトCD

1.



Rusó Sala / Fil De Coure (銅線) (MICROSCOPI / MIC-011)

スペイン・カタルーニャ出身のシンガーソングライター、ルソ・サラ。『銅線』と名付けられた本作のアートワークには、女性の裸体から飛び出した銅線がへその緒のように描かれています。この銅線の先には？歴史と現在、魂と世界、北と南、人と人。生命は、すべてを繋げる糸、というメッセージが込められています。カタラン語、スペイン語、イタリア語、サルディーニャ語の詩と、本人とサルディーニャ島出身の女性ギタリストの奏でる柔らかな音色が、地中海の暖かな陽光と潮風を運んでくれます。

2.



Rosapaeda / In Forma Di Rosa (薔薇のかたちで) (BEANS / BNSCD-865)

ロサバエダは、南イタリア、プーリア州の港町バーリを拠点に活動しているシンガー。プーリア州はイタリアの地図で見ると、ブーツのかかと部分。本作『薔薇のかたちで』は、その地域の伝統音楽を軸に、その地に息づくアドリア海を渡って伝わったバルカンのリズム、地中海から渡ったアフリカやアラブの音楽要素が、交じり合って作られています。文化や人々が、結びついたり、違いを楽しみながら生きることの官能的な美しさを感じてください。

3.



Bianca Gismondi / Sonhos de Nasciment (誕生の夢) (KING INTERNATIONAL / KKW-1014)

ビアンカ・ジズモンチの音を香りで例えるならば、ブラジルの密林に咲く野生のバラの芳醇な香りと言えましょう。緻密かつダイナミックな表現力と、ブラジルの風土や歴史を包括するような彼女のピアノの音色は、ブラジル音楽界の鬼才として名高い父親エグベルト・ジズモンチ譲りですが、彼女の内面から溢れ出すたおやかなピアノの音色と、妖艶な低音の歌声は息をのむ美しさがあります。

4.



Hindi Zahra / Homeland (祖国) (WARNER FRANCE / 2564.61368)

パリを拠点に活躍するモロッコ人シンガー、ヒンディ・ザーラ。本作『祖国』は、デビュー作発表から約二年半、世界中をツアーで周った後、マラケシュに戻り、故郷の土地と音楽にインスピレーションを得ながら作られました。このアルバムを聴くと、ヒンディの開かれた感性で吸収してきた世界各地での素敵な出逢いが、祖国に戻って昇華していく様が、疑似体験出来ます。まるでサハラ砂漠を駱駝に乗ってゆっくりと旅するかのよう…。

5.



Rokia Traoré / Tchamantché (バランス) (P-VINE / PCD-93197)

西アフリカ、マリ共和国出身の歌姫、ロキア・トラオレの歌声は、非常にデリケートでありながら揺ぎ無い強さを持ち備えています。西アフリカの伝統的な弦楽器ソングやギターに乗せて、彼女のルーツである部族の言語バンハラ語、フランス語で歌われる詩は、言葉の意味がわからなくても妙な説得力を持って心に響いてきます。唯一英語で歌われるビリー・ホリデイに敬意を表した『The Man I Love』では、見事にロキア独自の世界観が表現されています。